

地域支援だより

きらりNet

平成29年12月15日

第79号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

本校で取り組んでいる居住地校交流について紹介します。

居住地校交流から広がる笑顔

自分の住んでいる地域で、人間関係を広げ、豊かに暮らしていくために同年代の子どもたちと交流する居住地校交流。今年度は小学部児童7名が、地域の小学校で年3回程度、国語、音楽、図工などで交流しています。

居住地の小学校児童との関わりを通して、積極的に挨拶や話をしたり、興味・関心が広がったりしています。地域の夏祭りなどの行事に参加するようになった児童もいます。

地域の子どもたちにとっては、地域の仲間として関わりながら障害に対する理解を深めていく機会になっています。



本校児童の感想です。

「近所に住んでいる友達にまた会いたいです。」
「友達のやっているところをよく見て覚えました。」
「みんなと勉強ができてうれしかったです。」



(図工) こけ玉作り
「友達と一緒に土に触れたよ」



「ザクザク」と言葉掛けしながら、
友達と一緒に稲刈り



(音楽) 器楽演奏
友達とリズムを合わせて

交流の広がり

～学年や学部での交流～

居住地校交流をしている小学校からの「交流したい」というニーズを受け、対象児童だけでなく、その児童の学年や学部全体で交流会をするなど、交流の輪が広がっています。交流会では、猛獣狩りゲームやピン倒しリレーなどを行い、互いに触れ合う機会になっています。小学生からは「楽しく遊び、仲よくなれてよかったです」「みなさんがここにこ笑顔で笑ってくれてうれしかったです」という感想が寄せられています。



ピン倒しリレー
「二人で息を合わせて」

障害理解の推進

～出前授業の開催～

居住地校交流をしている小学校から依頼を受け、車椅子体験や障害理解の出前授業を行っています。「車椅子の人が困っていたら言葉を掛けて、優しく押してあげたいです」「相手の気持ちを考えて生活することを心掛けたいです」などの感想が寄せられています。



車椅子体験

文責：長谷川絵美子

きらりの実践 中学部 音楽

その⑥

自立活動を主とする学習グループ
(中学部1～3年)の実践
キーワード：心地よさ

中学部2組の音楽では、次の3つのことを大切にして授業づくりをおこなっています。

♪安心できる環境設定♪

週2回(月、木)の授業では、活動内容を固定して、【始まりの歌→鈴や太鼓を鳴らして呼名に答える→歌唱や器楽等のメインの活動→さようならの歌】という流れで行っています。活動の詳細は曜日や月によって多少変化しますが、いつもと同じ=安心感が心地よさにつながっています。



みんなで始まりの歌を歌う

♪感じたことを伝える♪

この時間は、音でつながり、伝え合う、大事なコミュニケーションの時間です。生徒が心地よさを感じ、「これが好き！」という気持ちを発信できるように、様々な歌唱(季節の歌、日本の歌、英語の歌等)や器楽、リトミック(曲のテンポに合わせて周回する等)、生演奏の鑑賞等の活動を取り入れています。



アメージング・グレイスに
合わせてハンドベル合奏

♪体の感覚に働き掛ける♪

音楽が大好きな2組の生徒は、様々な音色やリズムを聴いて(聴覚)心躍らせたり、様々な楽器を見て(視覚)楽しんだり、それぞれに心地よさを感じています。その中で、直接楽器に触れて、肌で響きを感じる時間も設定しています。



カバサでマッサージ

(文責：高澤衣久子)

教育専門監のコーナー

【音楽のもつ力】

『音楽にはルール(規則性)がある』ということです。楽譜の最初には、ト音記号やヘ音記号が書いてあります。そしてフラットやシャープがあつたりなかったり、その次に4分の4とか、4分の2とかが書いてあります。拍子記号です。この拍子記号は「この曲は○拍子の曲ですよ」と明記して演奏する人にお知らせしています。例えば4分の4拍子って書いてあれば演奏者は、「ああ、この曲は4拍子ね、1、2、3、4、の繰り返しで最後までいくんだね」って理解して心の中で準備することができます。大切なことは「1、2、3、4」を繰り返す。すなわち「1、2、3、4」という一定のリズムを刻むということであり規則性です。この規則性があることで次に何が来るのかを予測できます。予測できることで人は安心できます。次にどうなるか、次に何が来るのか、わかることで常に安心していられます。(公式WEBサイト「音楽療法講座」より)

控えめに表現する生徒、その横で心地よいビートを刻む先生。「音楽って楽しい」、そのリズムを聞き、そのリズムに応えるように自分らしさを表現します。もともと表現したいと、奏でる音とともに生徒の表情も生き生きと輝き出します。

リズムが体に躍動感を与え、テンポを生み出します。声を出すことで呼吸が整い、一体感をもたらします。繰り返しの学習が、生徒の気持ちを一つにしていきます。いつもの勉強をいつも通りにする、先を見通すことで、指先が、そして体が、滑らかに動き出し、演奏に調和をもたらします。「次は何かな」、先を見通す力と「これが好き」、選び取る力、本校の子どもの表現は二つの学びに支えられています。

少ない音で曲を紡いでいく生徒に「一人一人の音が光っていた。」と話す先生。その言葉に、表現が広がります。多くを語らなくとも響く音と自信と勇気を与える言葉、いつまでも大切にしたいものです。

(文責：二階堂 悟)

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

